2月25日　「見失った羊のたとえ」　聖書研究

テキスト　ルカによる福音書15章1〜7節

〔見失った羊のかけがえのない重み〕

まことの神、主イエス・キリストの養われる羊の群れとして、しばしば、神の民は物語られます。（ヨハネ10章1〜18節、エゼキエル書34章16節）また、マタイによる福音書18章12〜14節には同様のたとえ話があり、そこでは、「小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」と言われています。

イエスによって、このたとえが話された時、まず、「話を聞こうして」「イエスに近寄った」（1節）のは、人々から外目で判断されて疎外されていた、徴税人や罪人（罪ある者ではなく、罪人とされた者の意味）たちの一団でした。このとき、まず、熱心に主の言葉に聞こうとした者たちをイエスが進んで受け入れたこと自体が、ファリサイ派の人々や律法学者たちにはとても不満なことでした。しかし、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」（2節）とは、イエス・キリストが、この罪人とされた人々の仲間の一人と呼ばれることを厭わなかったという恵み深い出来事をかえって物語るものでもあります。

イエス・キリストが教えられたこのたとえ話は、一匹の羊にたとえられた、ほんとうの罪人一人のたましいの重みを伝えるものです。この一人の重みを大胆に伝えるために、イエスは、百匹の羊のうちの一匹の羊として、物語るのです。それは百分の一という比率ではなく、かけがえのない一人のたましいとしてです。

この百匹の羊を養う羊飼いの熱心について、イエスは、「見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか」と、わたしたちに問いかけます。

この見失った羊一匹の重みは、この一匹の羊を見つけたときの大きな喜びによって表されます。それは、羊飼い一人にとどめられるものではなく、「友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』」（6節）と呼びかけるほどのものです。

〔キリストにある教会の交わり〕

このように、まず、まことの神ご自身が、罪ゆえに本当の自分を失った罪人の救いを熱心に求めておられるのです。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子（イエス・キリスト）をお遣わしになりました。ここに愛があります」（ヨハネの手紙一4章11節）とは、このたとえ話の言わんとする真理を証言するものです。

はじめの人アダムの不従順において、全人類は罪に堕落しましたから、「悔い改める必要のない」（7節）人を地上に住む人々の中に求めることはできません。むしろ、だれもが、悔い改めて、神に立ち返ることが必要です。ですから、「悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある」（7節）との宣言は、キリストによってのみ、ほんとうの罪人は救いに入れられるという強い必然を同時に伝えるものでしょう。

わたしたちの教会の交わりは、「彼（キリスト）にあって、彼が完全に所有しておられる栄光に関与しているので、この世で、キリストと共なる栄光の初穂を分有している。またその保証として、神の愛の自覚、良心の平和・聖霊による喜び・栄光の望みを享受する。……」（ウェストミンスター大教理問答問83）ものです。

今、ここで、神の憐れみを受け入れ、一緒に、主イエスの御名をほめたたえること、そのこと自体が、まさに、十字架の死から復活され、天に上げられたキリストの祝福の中にあることです。「弱い人、乏しい人」を憐れんでくださる主のみ業に期待し、共に祈り続けましょう。

（エフェソ2:4,5、詩編72:12-14、詩編119:176）

（宮武輝彦）

2月25日　「見失った羊のたとえ」　説教展開例

テキスト　ルカによる福音書15章1〜7節
参照カテキズム　子どもカテキズム 問31

〔単元のねらい〕

人の命が物のように扱われ、人の価値がさまざまなこの世的なものさしではかられることがおそらく一般化している社会に、大人も子どもたちも生きている。そうした中で、神が私たちの命と存在とを無条件に愛してくださること、そこにこそ私たちの生きるもといが据えられていることを、主イエスがお語りになった「見失った羊のたとえ」を通して今一度確かめたい。

「一匹の羊を愛するイエスさま」

聖書はイエスさまを羊飼いに、私たち人間を羊にたとえています。羊飼いは羊を愛して、一匹一匹の羊の名を呼び、養い、憩わせ、さまざまな危険から命がけで守ります。イエスさまも、そのようなよき羊飼いです。

ところである時、イエスさまはこんなお話をなさいました－もしも百匹の羊を持っている人がいたとして、その人が一匹の羊を見失ってしまったとしたら、その人は九十九匹を野原に残してでも、いなくなった一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして見つけたなら、喜んでその羊を担いで帰り、多くの人々を集めてお祝いをしないだろうか。

このイエスさまのお話を聞いて、皆さんはどう思いますか。ある人は言うかもしれません。九十九匹を置き去りにしておいてたった一匹を捜しに行くのはどうだろうか。その九十九匹がもしも獣に襲われたなら、いったいどうするのだろうか。一匹と九十九匹とでは、九十九匹のほうが大事に決まっているではないか。

たしかに計算の上ではそうかもしれません。けれども、よく考えてみてください。あるお母さんに十人の子どもがあって、そのうちのひとりがいなくなってしまったら、そのお母さんはあと九人もいるからかまわないなどと考えるでしょうか。きっといなくなったひとりのために深く嘆き悲しみ、心配するはずです。

イエスさまは羊飼い、私たちは羊です。見失った一匹の羊を、このわたしだと考えてみてください。そのあなたを、九十九匹を残してまで捜し回ってくださるのがイエスさまなのです。なぜなら、イエスさまにとってはあなたのたったひとつの命も、かけがえのない命だからです。そこでは、九十九匹と一匹というような計算は成り立たないのです。なぜならイエスさまは、一匹の羊に九十九匹の羊たちにもまさるともおとらない、限りない愛を注いでくださるお方だからです。

神さまは、わたしの目にあなたは価高く、貴いと私たちのひとりひとりに仰せになります（イザヤ書43章43節）。

ある人はまた、こう考えるかもしれません。羊飼いが九十九匹の羊を野原に残してまで、いなくなった一匹を捜しに行ったのは、その一匹が九十九匹を残して捜すにあたいするほど価値の高い、特別にすぐれた羊だったからだろう。

でも、そうではありません。いなくなった一匹も、おそらくほかの九十九匹と特別変わるところのない羊であったことでしょう。

つまり、神さまは私たちがすぐれているかどうか、いろいろなことができるかどうか、そのようなことは問題になさらないのです。神さまにとっては、私たちに何ができるかできないかということをこえて、私たちひとりひとりの存在そのものが宝石のように価高いのです。私たちの命そのも

のを限りなく愛し、いつくしんでくださるのです。なぜなら神さまが私たちを造られたからです。私たちの命も、尊くかけがえのないものとして造ってくださったからです。

だからこそ、一匹の羊がいなくなったことは、羊飼いにとって耐え難い痛みであり、苦しみであったのです。だからこそ、羊飼いは九十九匹を置き去りにしてまで、一匹の羊を捜し回ったのです。

このイエスさまのお話は、たんなるたとえ話ではありません。神さまがどれほどこのわたしのひとつの命、一匹の羊を愛しておられるのかを、私たちは神さまが私たちの救いのためになしてくださったみわざを通して知るのです。

それは私たちの命を罪から救うために、み子イエスさまを十字架につけられたというみわざです。

イエスさまの命こそ、ほんとうにかけがえのない、貴い命でした。けれども神さまは私たちの罪を贖うために、このイエスさまの命を犠牲となさったのです。それほどまでに私たちの命を価高いものと見なしてくださるのです。私たちを愛されるのです。

そして、羊飼いが見つけ出した一匹の羊をかついで喜ぶように、私たちがイエスさまの贖いによって罪赦され、神さまと和解し、悔い改めてご自分のもとに帰ってくることを、最高の喜びとしてくださるのです。　（木下裕也）

〔今週の暗唱聖句〕　イザヤ書43章4節

わたしの目にあなたは価高く、貴く
わたしはあなたを愛し
あなたの身代わりとして人を与え
国々をあなたの魂の代わりとする。

2月25日　「見失った羊のたとえ」　幼稚科

〈ねらい〉

神様が無条件で私たち一人一人の命を尊び愛してくれていることを知る。

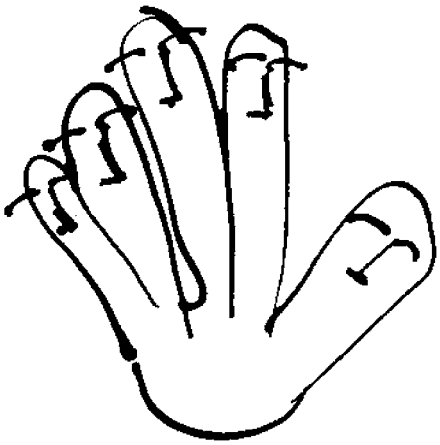
〈展開例〉

聖書ではよくイエス様を羊飼いに、人間を羊にたとえています。イエス様はある時、お話されました。百匹の羊を飼っている羊飼いが、一匹の羊がいないとわかったら、他の九十九匹を残してでもいなくなった一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして見つけたら喜んでその羊を担いで帰り、友達や近所の人々を呼び集めて「見失った羊が見つかったので一緒に喜んでください。」と言うであろうというたとえです。

私たち、〇〇ちゃんも〇〇君も迷子になり、いなくなったらお父さんやお母さんやお家の人が見つかるまで一生懸命捜すよね。そういう風にイエス様も私たち〇〇ちゃん〇〇君のことをとっても大事に思っています。時々いけないことをしてしまう子でも、ごめんなさいができる子でもできない子でも、私達のことをとっても大好きで愛してくれています。その愛は、神様が、私たちの悪いことのために、ご自分の子のイエス様を十字架にかける程に、私たちを愛してくださっています。それは私たちを神様がかけがえの無いものとしてお造りになったからです。ですから〇〇ちゃんも〇〇君も神様の御言葉を守って、お家のひとの言うことをよく聞いて、皆と同じ位大事なお友達にも優しくしようね。神様の御言葉を守って皆のこと大事に思っている神様と一緒に幸せに過そうね。

〈お祈り〉

神様、私たち一人一人のことをとても大切に愛してくれてありがとうございます。お友達にも優しく親切にできるようにして下さい。



「見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください」

2月25日　「見失った羊のたとえ」　小学科下級

〈ねらい〉

多いか、少ないか、儲かるか、儲からないか、損をするか、得かするか、というような功利的な基準で、すべてのことが判断されるような世の中です。しかし、神様はそのような基準ではなく、一人一人の人間の命をかけがえのないものとして創造され、愛しておられます。一人の命の尊さは、決して何人の命とも比較することはできません。したがって、罪による滅びへと向かっていた罪人の命が、滅びから救われたという喜びは、決して他のどんなことにも代えられない大きな喜びなのです。

一人一人の命の尊さと、その一人一人の命に救いのために注がれている神様の大きな愛を子供たちと一緒に味わいましょう。

〈展開例〉

1. イエス様が人々にお話をしておられた時、そこにいたファリサイ派や律法学者が、突然、イエス様に不平を言い出しました。彼らは何と言ったのでしょうか。
2. どうしてファリサイ派の人たちはそのことが我慢できなかったのでしょうか。
3. イエス様はファリサイ派の人々の疑問に答えるために「見失った羊」のたとえをお話なさいました。そもそもどうして、この羊は迷子になってしまったのでしょうか。みんなで考えよう。
4. 羊飼いは、一匹の羊が迷子になったことを知ってどうしましたか。
5. 迷子になっていた一匹の羊が見つかった時、その羊飼いは何と言いましたか。
6. 羊飼いは九十九匹の羊よりも一匹の羊の方が好きだったのでしょうか。
7. 迷子になった羊とは誰のことでしょうか。
8. この羊飼いは誰のことでしょう。

〈おいのり〉

愛する天の神様。イエス様を信じる前のわたしは、迷子になった羊と同じでした。しかし、イエス様はそんなわたしを愛してくださり、わたしを救うために十字架にかかってくださいました。どうか、これからも迷子にならないようにいつもイエス様と一緒に生きることができますよう助けてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2月25日　「見失った羊のたとえ」　小学科上級

〈ねらい〉

一匹の羊を捜し求め、見つけ出してくださるイエス様の愛の大きさを知る。

〈展開例〉

1. 一匹一匹に名前がつけられている

羊飼いは羊の一匹一匹に全部、名前をつけています。羊飼いでない人が百匹もの羊を見たら、なんだか全部同じような顔に見えるかもしれません。でも羊飼いは顔や姿だけでなく、どの羊がどんな性格で、どんなくせを持っているのかまで全部知っています。

ですから羊飼いが家に帰るとき、百匹のうちの一匹がもし見あたらなければ、どの羊がいなくなったのかがすぐにわかるのです。

迷子になってしまった羊は、どうなるのでしょう。羊はとても弱い動物です。獣に殺されてしまうか、えさが十分に食べられずに死んでしまいます。ですから羊飼いは、急いで迷子になった羊を捜しに行かなければなりません。

2. 迷子になった羊とは

迷子になった羊とはだれのことでしょう。神様から離れて迷い出た私たちのことです。

イエス様は一匹の羊を見つけ出すまで捜し続ける羊飼いのように、私たち一人一人を捜し出して、神様のもとに連れ戻してくださいます。イエス様は良い羊飼いだからです。

3. 大きな喜び

あなたは大切なものをなくしてしまったことがありますか。やっとそれが見つかったとき、ついに見つけた！　と叫びたいくらい嬉しいですよね。

羊を見つけた羊飼いは、喜びにあふれて羊を肩にかついで帰ってきます。友人や近所の人を呼んでパーティーを開くほどの喜びです。いなくなった自分の羊が戻ってきたからです。

一人の人が悔い改めて神様のもとに帰るとき、天では大きな喜びが起こります。失われた命が戻ってきたからです。

4. たった一匹なのに？

もしあなたが百匹の羊を飼っていたら、一匹ぐらいいなくなってもしかたがないとあきらめてしまうでしょうか。一匹は百分の一の価値しかないのでしょうか。

神様は私たち一人一人を特別に愛してくださっています。それは私たちにすぐれた能力や価値があるからではありません。神様は私たち一人一人を、かけがえのない存在としてお造りになったからです。

5. イエス様の愛

羊飼いは羊を見つけ出すまで捜し回りました。危険な所や遠くまで捜しに行きました。

同じようにイエス様は、自分では帰ることのできない私たちを捜し出して、肩にかついでくださり、父なる神様のもとに連れ帰ってくださいました。

神様はどれほど私たちを愛してくださっているのでしょうか。神のひとり子であるイエス様の命を私たちにくださるほどでした。それによって私たちの罪をゆるし、再び神様のもとに帰ることができるようにしてくださったのです。

※参考絵本「きみのかわりはどこにもいない」
　メロディー・カールソン(いのちのことば社)

6. 羊飼いのジグソーパズル（次ページ参照）

①コピーして色をぬる　②裏返しにしてジグソーパズルになるように線を描き、ハサミで切る　③表にしてパズルを完成させる。(拡大してみんなでやってもよい)

2月25日　「見失った羊のたとえ」　中学科

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問31が挙げられています。

問31　救いとは何ですか。

答　神さまの子どもとされることです。そのために、神さまは私たちの罪を赦して義と認めてくださいました。ですから、私たちは、喜びと感謝をこめて、「私たちの父なる神さま、私の天のお父さま」とお呼びします。

※見失った羊を探すように、滅びるしかないわたしたち罪人を探し出して救うため、世に来てくださったイエスさま。そのことを思いながら、次のカテキズムに挑戦してみましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問20　神は全人類を、罪と悲惨の状態のうちに滅びるままにされましたか。

答　神は、全くの御好意によって、永遠の昔から、ある人々を永遠の命に選んでおられたので、彼らと恵みの契約を結ばれました。それは、ひとりのあがない主によって、彼らを罪と悲惨の状態から救助して、救いの状態に入れるためです。

〈今週の聖書日課〉

今週は、まことの羊飼いの姿を描いている聖書箇所をまとめて読んでみましょう。

日曜日	ヨハネ10：11〜18
月曜日	詩編23編
火曜日	エゼキエル34：1〜10
水曜日	エゼキエル34：11〜16
木曜日	エゼキエル34：17〜22
金曜日	エゼキエル34：23〜28
土曜日	エゼキエル34：29〜31

先生方へ④

キャンプや修養会に行って、参加者の様子を見ていて思うことがあります。それは、学校のこと、趣味のこと、テレビのこと、好きな人のことなどの話では、ものすごくしゃべるのに、分団や分級の時間になると、たどたどしいしゃべり方になる人が多いということです。それは、信仰の問題についての言葉を知らないからだと思います。聞いたことのない言葉をしゃべれるようになる人間はいません。外国語学習もまず耳から、と言います。家庭や教会で年長者が語る信仰の言葉を聞きながら、子どもたちは自分たちなりの信仰の言葉をつむぎだしていけるようになります。子どもたちに聞かせられる信仰の言葉を、私たち大人が語れているかどうか、反省したいと思います。まずは聖書そのものからのみ言葉をどれだけ心に蓄え、語れているか。そして今年1年ご紹介してきた教理問答の言葉。これらの言葉は先輩たちがつむぎだし、語り伝えてきた遺産です。これを私たちのところで止めてしまわず、次の世代へと継承できているかどうか。語られなければ伝わりません。